

特別講演 午前の部

補綴治療における金属修復物からの脱却 ～ CAD/CAM 冠のすすめ ～

(一社) 日本デジタル歯科学会 理事長
(一社) 奈良県歯科医師会 会長

末瀬 一彦



略歴

末瀬 一彦 (すえせ かずひこ)
1951年8月8日生

1976年3月 大阪歯科大学 卒業
1980年3月 大阪歯科大学大学院 修了
1980年4月 大阪歯科大学 助手(歯科補綴学第2講座)(～1990)
1990年4月 大阪歯科大学 講師(歯科補綴学第2講座)(～1997)
1997年4月 大阪歯科大学 客員教授(～2014)
大阪歯科大学歯科技工士専門学校 校長(～2016)
2008年4月 大阪歯科大学歯科衛生士専門学校 校長(兼務 ～2014)
2014年1月 大阪歯科大学歯科審美学室 教授(～2017)
広島大学歯学部 客員教授 (以下、現在の役職です)
2017年4月 大阪歯科大学 客員教授
昭和大学歯学部 客員教授
東京医科歯科大学 非常勤講師
岡山歯科技工学院 非常勤講師
2019年1月 京都インプラント研究所 所長
2019年7月 奈良県歯科医師会 理事
奈良歯科衛生士専門学校 理事長
2021年6月 (一社)奈良県歯科医師会 会長
奈良県歯科医師連盟 会長

全国歯科技工士教育協議会 会長(2001～2016)
全国歯科衛生士教育協議会 理事(2008～2014)

(学会関係役職)(2021.7.1現在)

(一社)日本デジタル歯科学会 理事長
(一社)日本歯科技工学会 会長
(一社)日本歯科医療管理学会 常任理事
(一社)日本歯学系学会協議会 常任理事
(一社)国際歯科学士会(ICD) 理事
(一社)日本歯科審美学会 顧問
(公社)日本補綴歯科学会 名誉会員(2018.4～)
(一社)日本歯科理工学会 名誉会員(2018.4～)

(学会専門医)

日本補綴歯科学会 専門医・指導医
日本口腔インプラント学会 専門医・指導医
日本歯科審美学会 認定医
日本歯科理工学会 シニアアドバイザー
日本歯科医療管理学会 認定医

わが国の医療保険制度は世界的にも類をみないほど充実しているが、治療プロセスの縮めくりである補綴治療において金銀パラジウム合金が使用されることによって多くの問題点がクローズアップされてきた。とりわけ最近金パラ合金の公定価格は高騰し続け、安定した医療保険材料が模索されてきた。歯科用CAD/CAMシステムの急速な普及に伴って2014年4月の診療報酬改定においてCAD/CAM冠用ハイブリッドレジンブロックを用いた歯冠修復が小臼歯に保険収載され、2017年12月には条件付きながら下顎第一大臼歯に、2020年4月には上顎第一大臼歯に、そして同年9月には前歯部への適用が可能になった。現在、CAD/CAM冠施設基準届出数は、全国の歯科診療所の80%を超えているが、未だ修復物の多くは金パラ合金に頼っているのが実情である。金属修復物は強度があり、長期耐久性に優れるが、その反面、審美的不良、歯や歯肉の変色、歯根破折、金属アレルギーの危険性などの問題点があり、患者サイドに大きな欠点となる。

CAD/CAM冠は保険収載された当初は破折が危惧されたが、実際は脱離の方が多くみられ、改めて歯冠修復物の維持に関わる3要素、すなわち「支台形態」「適合性」「接着操作」を重要視されなければならない。また、CAD/CAM冠用レジンブロックは金属とは異なり弾性があるために材料の厚さと応力の集中には十分注意する必要がある。大白歯用レジンブロックでは強度面の向上、前歯部用レジンブロックでは審美性に対する配慮が行われ、適材適所に用いることで金属修復物に比べて患者満足度も高い。さらに、支台歯に優しく、審美性を追求するためには支台築造においてファイバーポスト・コンポジットレジンコアの適用が好ましい。現在、第二大臼歯が残存し、咬合状態が良好ならば、前歯から第一大臼歯の単独歯冠修復はすべてCAD/CAM冠で対応可能であるが、材料特性を十分理解して臨床応用されることが望ましい。